

令和2年度「民間試験を活用した英語4技能向上事業」

報告書 B高校

1 令和2年度入学生の指導に係る全体計画 **Plan**

技能	1年	2年	3年
Reading	<p>(指導計画) 在籍する生徒の学力に幅がある実態を鑑み、コミュニケーションⅠの教科書を使って、基礎的な内容について多くのインプットを与える。また文章の内容理解について、図やイラストなどの思考ツールを効果的に使用し、生徒の英文に対する理解を促す。さらに、意味を重視した音読活動も数多く取り入れ、重要表現などの定着を図るとともに、アウトプット活動の基礎を固める。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①観光地等の英語のパンフレットを読み、大体の意味を把握することができる。 ②教科書の本文を読んで、内容の大筋を理解でき、1文が短く単純な構文で書かれた教科書の内容を、日本語に訳さなくても内容を理解できる。 ③英文の内容の理解が多少不十分な点はあるが、内容がほぼ聞き手に伝わる音読ができる。</p>	<p>(指導計画) コミュニケーションⅡの教科書を使って、標準的な内容について多くのインプットを与えながら、思考力を育成するための発問を組み込んだ様々な読解活動や意味を重視した音読活動を中心とした授業を継続する。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①外国語学習者向けの英字新聞を読んで大体の意味を把握することができる。 ②教科書の本文について、複数の段落間のつながりや文章全体の構成を理解できる。 ③英文の内容の理解がほぼ十分で、理解した内容が聞き手に伝わる自然な区切りやスピードで音読ができる。</p>	<p>(指導計画) コミュニケーションⅢの教科書を使って(1組)、標準的な内容から発展的な内容まで大量のインプットを重視しながら、思考力の育成を意識した読解活動を継続しつつ、大学入試問題も意識した授業を行う。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①比較的なじみのない話題であっても辞書などを使って高校生向けの英字新聞や英語のインターネット記事の内容を大体把握することができる。 ②教科書本文中の重要な点とそうでない点を区別し、書き手の意図などをほぼ正確に理解して、筆者の意見と自分の意見とを比較しながら文章を批判的に読むことができる。 ③英文の内容の理解が十分で、理解した内容が聞き手に十分伝わるように、ジェスチャー・ポーズ・強弱・スピード等に効果的な工夫を凝らした音読ができる。</p>
Listening	<p>(指導計画) 教科書の導入でリスニング活動を行ったり、音読練習の際にシャドウイングやオーバーラッピング活動を行う。またリスニング教材を使い、同様にシャドウイングやオーバーラッピング活動を継続的に行う。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①英語のネイティブスピーカーがスピードやポーズなどにより配慮して話をすれば、おおよその内容を理解できる。 ②教室で用いられる英語は、くり返し話されれば、指示や説明をほぼ理解することができる。 ③リスニング活動に出てくる、5文程度の長さの短い話や会話を聞いて、話し手の意図や内容をおおまかに理解できる。</p>	<p>(指導計画) 導入でのリスニング活動やシャドウイングやオーバーラッピング等のトレーニングを継続するとともに、レベルを上げたリスニング教材でトレーニングを行う。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①英語のネイティブスピーカーがはっきりとした発音で話をすれば、おおよその内容を理解できる。 ②教室で用いられる英語は、自然な速度で話されても、指示や説明をほぼ理解することができる。 ③リスニング活動に出てくる、10文程度のわかりやすい展開の話や会話を聞いて、大筋なら内容を理解できる。</p>	<p>(指導計画) コミュニケーション英語Ⅲにおいて(1組)、導入でのリスニング活動やシャドウイング等のトレーニングを継続するとともに、大学入試共通試験等を意識したリスニング教材でトレーニングを行う。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①日本で放送されている英語で読まれるニュースなどを聞いて、その内容を理解することができる。 ②教室で用いられる英語は、自然な速度で話されても、指示や説明をほぼ理解でき、多少内容が複雑なものであっても、即座に行動に移すことができる。 ③リスニング活動に出てくる、複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と内容の区別をしながら理解できる。</p>

<p>Speaking</p>	<p>(指導計画) 帯活動として、簡単なテーマについてのペアでの会話やスピーチ練習、フォーマットを与えた会話練習を継続して行う。また単元のテーマに合わせたスピーキング活動を組み入れる。 さらにパフォーマンステストも実施し、評価に反映させることで活動に対する生徒のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①日常生活の身近な状況を説明することができ、自分の将来の夢や希望について話すことができる。 ②聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、自分の言葉で話すことができる（1分程度）。 ③教科書の内容について、キーワードを使って口頭で英文を作ることができる。また、コンセプトマップを見ながら文単位でゆっくりと話すことができる。</p>	<p>(指導計画) 帯活動として、ペアでのより高度なテーマについての会話・スピーチ練習やフォーマットを与えた会話練習、ミニディベートの練習を継続する。単元のテーマに合わせたスピーキング活動を継続して行う。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①印象に残った出来事について、具体的な描写を加えながら話すことができ、他者からの質問にも答えることができる。 ②自分が興味を持ったニュースや話題について、自分の考えも含めて、相手に伝わるように簡潔に話すことができる（1分程度）。 ③教科書の内容について、本文を抜き出してそのまま使うことが多いが、コンセプトマップを見ながらまとまった英文を話すことができる。</p>	<p>(指導計画) 帯活動として、発展的なテーマについてのペアでのスピーチ練習や即興での会話、ミニディベート、ディスカッションの練習を継続して行う。また単元のテーマに合わせたスピーキング活動を継続する。さらにパフォーマンステストも実施し、評価に反映させることで、生徒のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①短い新聞記事等であれば、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序立てて伝えることができる。 ②与えられた条件に合わせて、伝えたい内容を整理して、自分の考えも含めて、論理的に即興で話すことができる（1分30秒程度）。 ③教科書の内容について、自分独自の言葉遣いや順序で、わかりやすく言い換えることができる。</p>
<p>Writing</p>	<p>(指導計画) スピーキング活動で話した内容を書くことで、英語を書くことに慣れさせるとともに、正確さを高める手助けとする。教科書の内容について質問に答える活動や自分の考えを表現する活動など、英語を書く機会をたくさん与える。さらにスピーキング活動同様、パフォーマンステストも適宜取り入れ、評価に反映させることで、アウトプット活動に対する生徒のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①2～3文程度の短い簡単な内容の英語の日記を書くことができる。 ②自分の意見や感想を意味が伝わるように2～3文の英文で書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、主題文や結論文などの主要なメッセージ部分が不明瞭なことはあるが、キーワードを使って英文を書くことができる。</p>	<p>(指導計画) スピーキング活動と連動した活動を継続するとともに、学習した表現（語い、文法、構文等）を使って、文章構成を意識しながら自分の意見を書いたり、書いたものを個人・ペア・グループ等の様々な形態で振り返ったりする機会を数多く与える。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①英語の手紙や電子メールなどで、ある程度まとまった内容を、それほど辞書を引かなくても書くことができる。 ②学習した表現（語い、文法、構文等）を使って自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、本文を抜き出してそのまま使うことが多いが、主題文や指示文をつないでサマリーを作り、簡単なコメントを付け加えることができる。</p>	<p>(指導計画) スピーキング活動との連動を継続しつつ、大学入試問題を意識した英作文や和文英訳を行う機会を与える。より発展的な話題に関して、自分の意見について論理構成を意識しながら、既習表現を使って英語で書いたり、個人・ペア・グループ等の様々な形態で振り返ったりする活動を継続する。さらにスピーキング活動同様、パフォーマンステストも実施し、評価に反映させることで生徒のモチベーションの向上につなげる。</p> <p>(力) ※進学コースの目指す力 ①身近なニュースや社会問題について自分の意見を考え、段落構成を踏まえて書くことができる。 ②意見の分かれる話題について、自分の意見を論理的に考え、段落構成をふまえて複数の段落で書くことができる。 ③読んだ英文の内容について、自分の表現を多く使いながらサマリーを作り、さらにその内容に対してコメントを付け加えることができる。</p>

2 試験結果を踏まえた (1) 現状分析、(2) 重点課題、(3) 重点課題の克服に向けた実践 (指導と評価の工夫) **Do**

技能	(1) 現状分析	(2) 重点課題
	(3) ①実践 (指導の工夫)	(3) ②実践 (評価の工夫)
Reading	(1) GTEC は今回、23名の受検であった。その中で CEFR:A2 レベルが7名、CEFR:A1 レベルが16名、平均スコアは137.3、WPM は60.4であった。	(2) Part A (短文文脈理解問題: 単文レベルの英文の中で文脈的なつながりを理解し、文章を読解できる力を測定する問題) の設問別正答率が16.4% (全国平均56.2%) と特に出来が悪かった。
	(3) ① コミュニケーション英語の授業で教科書を読解する場面では、scanning を意識させ、英問英答や True or False 問題などの情報検索問題を継続的に出題する。また意味を重視した音読活動にも、様々な形式で取り組ませ、概要把握や文脈理解、文章のつながりの理解を促す。	(3) ② 定期考査問題に情報検索問題を出題し、波及効果を考え、生徒に普段から意識的に情報検索問題や概要把握問題に取り組ませる。音読に関して、パフォーマンステストで相手に意味がきちんと伝わる音読かどうかなどを評価する。
Listening	(1) 23名中、CEFR:A2 レベルが1名、CEFR:A1 レベルが22名で、平均スコアは131.8であった。Reading と比べ、全体的に Listening の力が弱い。中学3年生の平均スコアが155であり、それと比較しても、中学2年生程度のリスニング力(121)がない生徒も4名いる。	(2) Part C (課題解決問題: 日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題(タスク)を解決する力を問う問題) の設問別正答率が30.0% (全国平均63.0%) と、全国平均と比べると特に出来が悪かった。
	(3) ① コミュニケーション英語の授業において、レッスンの導入部分で適宜リスニング活動を取り入れる。また音読活動の際に、シャドーイングやオーバーラッピングを何度も行うことで、リスニング力強化に徹底して取り組ませる。	(3) ② 学期に2回程度パフォーマンステストを行い、その中でALT と英語による即興の会話を行うことで、英語の音に反応する力を評価する。また、定期考査でもリスニング問題を出題し、普段からリスニング活動に取り組むように意識づけをする。
Speaking	(1) 22名の受検であった。平均スコアは167.2、CEFR:A2 レベルが9名、CEFR:A1 レベルが13名であった。中学3年生の平均スコアが155であり、それと比較すると、ある程度の Speaking の基礎力はあると思われる。	(2) Part B (各設問の問いかけに応じた内容を伝えることができるかを測る問題) の出来が特に悪かった。全体的に、各設問で3点や4点を獲得している生徒は皆無であった。
	(3) ① 帯活動で、ワードカウンターを用いた1分間 small talk や様々なトピックについてのスキット (fluency も意識しながら) などに継続的に取り組ませる。週1回のALT との授業は、特にスピーキングに特化した授業を行う。コミュニケーション英語の授業では、各レッスンでオーラルサマリーをさせたり、レッスンのトピックに関して自分の意見を英語で発表するなどの活動も取り入れる。	(3) ② 学期に2回程度、パフォーマンステストを行う。授業での帯活動と関連させ、授業で行ったスピーキング活動を、教師やALT と1対1で行う。このようにすることで、授業でのスピーキング活動に対する生徒の意欲が高まるだけでなく、授業外での自主的なスピーキングの練習やALT との積極的なコミュニケーションにもつながると考える。
Writing	(1) 23名の受検者中、CEFR:A2 レベルが6名、CEFR:A1 レベルが17名で、スコア59以下の生徒も5名であった。平均スコアは140.6である。	(2) 特に PartB (Eメール内の質問に対して、イラストに沿った内容を適切に回答できるかを測る問題) が書けていない。ある程度の分量の英語を書くこと (fluency) には慣れてきているが、正しい文法で書く力 (accuracy) と、構成・展開の力はかなり低い。また、適切な語句を用いて表現するための語彙力も十分であるとは言い難い。
	(3) ① コミュニケーション英語の授業において、各レッスンの本文の内容に関して自分の意見等、ある程度の量の英語を書かせる。また、帯活動におけるスピーキング活動と関連させ、話したことを書かせる機会を多く設定する。生徒が書いたものの中で特に優れたものを他の生徒にも共有して参考にさせることで、accuracy を向上させる。	(3) ② パフォーマンステストで話した内容について、ライティングテストを行う。さらに同じ内容を定期考査にも出題する。くり返し書かせることで、英語を書くことに慣れさせるとともに、accuracy を向上させる。

3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

技能	実践の検証	改善案
Reading	① Q&A や True or False 問題を始め、様々な読解問題を授業に組み入れた。また、情報検索問題、事実発問、推論発問などをバランスよく取り入れることができた。しかし、Q&A に関しては日本語で行う回数が多く、英問英答の量が少なかった。	① 多くのインプットを与えながら、様々な読解活動を継続することに加えて、次年度のコミュニケーション英語Ⅱでは、各パートで最低3問は英問英答問題を与え、英語の発問や解答に慣れさせ、生徒の主体的な読解活動につなげる。
	② 定期考査では情報検索問題や事実発問、概要について問う問題などをバランスよく出題することができた。音読に関しては、パフォーマンステストを予定通り実施できた。 ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月）（進学コースとしての基準） Reading① 10.3% → 28.2% Reading② 12.8% → 33.3% Reading③ 20.5% → 48.7%	② 普段の授業において、継続的に概要把握問題や情報検索問題を組み入れる。音読のテストは、ルーブリックの文言やレベルを生徒の実態に合わせて調整し、生徒の力に合った適切な評価ができるようにする。
Listening	① 教科書の各パートの導入部分では、継続してリスニング活動を取り入れることができた。クラスルームイングリッシュに関しても、多くの生徒が慣れてきた。シャドーイング活動やオーバーラッピング活動についても適宜実施したが、回数をさらに増やすことができれば、なお良かった。	① 家庭学習においてはリスニング学習が困難であると推測されるので、授業中のリスニング学習を継続的に数多く設定する必要がある。また定期考査でもリスニング問題を出题することで、授業中の主体的なリスニング学習を促したい。
	② パフォーマンステストや ALT との会話の機会を定期的に設ける中で、教師の質問をきちんと聞き取ることができる生徒が増えてきた。パフォーマンステストにおいて、やりとりの中で教師の言うことを理解できているかを評価することができた。 ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月）（進学コースとしての基準） Listening① 12.8% → 30.8% Listening② 25.6% → 56.4% Listening③ 15.4% → 41.0%	② 会話等のパフォーマンステストを継続する。また定期考査にリスニング問題を計画的に出題できるようにし、その配点もあらかじめ生徒に知らせておくことで、計画的・意欲的にリスニングの学習に取り組ませる。
Speaking	① 計画通り、教科書の内容に関連したトピックについてグループ内でスピーチをしたり、ペアの相手とトピックに関して会話させたりすることができた。帯活動においても、ALT と共に様々なスピーキング活動（1分間 small talk、様々なトピックのスキットなど）を実施した。	① 今年度多くのスピーキング活動を通して、accuracy がまだ低い生徒が多いが、生徒の fluency が年度当初より向上したと感じる。今後、スピーキング活動を行う際に、身につけさせたい文法項目に重点を当てたり、書く活動と組み合わせたりして accuracy を向上させたい。
	② 予定通り、各学期の定期考査ごとに帯活動と関連させながら「自分の好きな日本文化」「尊敬する人物」「平和と教育」などについて、スピーチテストを行った。 ※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月）（進学コースとしての基準） Speaking① 15.4% → 28.2% Speaking② 5.1% → 17.9% Speaking③ 7.7% → 17.9%	② 評価基準に関して、生徒のパフォーマンスの実態に合ったものになるように、年度途中に微調整をしながら行ったが、来年度も生徒のパフォーマンスがしっかりと評価されるように調整しながら行いたい。またそれらを事前に生徒に提示をすることで、生徒自身の中で目標を明確化され、Speaking に対する意欲の向上にもつながったように思われるので、継続していきたい。

Writing	<p>① 教科書のトピックに関して、ステップを適切に設けながら自分の意見などを生徒に書かせた。模範となる英文のモデルなども事前に生徒へ明示し、accuracyの向上も図った。またスピーキング活動と関連させて、話したことを書かせる活動を数多く与えた。</p>	<p>① 年度当初と比べて書くことに慣れてきた。しかし、書くための基礎的な文法の力や英語の基本構造の知識が足りず、思うように英語が書けない生徒が多い。また英語力以前に、トピックに関して自分の意見や考えを生み出せない生徒も少なくない。次年度は、引き続き話す活動と関連させた各活動を展開し、さらにモデルを生徒へ明示するなど accuracy の向上を図りたい。また、日本語を使用してでも自分の意見や考えを毎レッスン表現させ、自分の意見や考えを持つ習慣づけを促したい。</p>
	<p>② 計画通り、パフォーマンステストで話した内容についてライティングテストを行い、さらに同じ内容について定期考査にも出題した。評価の観点には、「分量」「正確さ」「内容の充実度」の3点で評価した。その配点は、初期は「分量」を重視し、後半は徐々に「正確さ」の比重を増やしていった。</p> <p>※CAN-DO 到達度（自己評価）の変化 （4月→2月）（進学コースとしての基準）</p> <p>Writing① 10.3% → 25.6% Writing② 5.1% → 15.4% Writing③ 2.6% → 20.5%</p>	<p>② 今後も、書く力を評価するためのパフォーマンステストや定期考査での出題を継続していきたい。fluencyを向上させるための「分量」と accuracyを向上させるための「正確さ」のバランスを生徒の実態と時期を見極めながら調整していく必要がある。また今後は、英検のライティングパートの問題を意識し、文章構成や内容の面から、「意見」「理由」「具体例」「結論」等が適切に書かれているかどうかに関する指導や評価も必要である。</p>